

経営比較分析表（令和6年度決算）

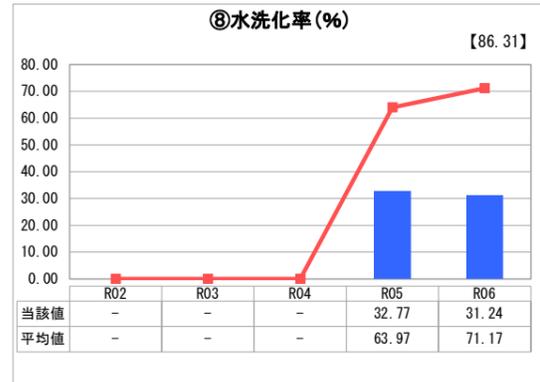
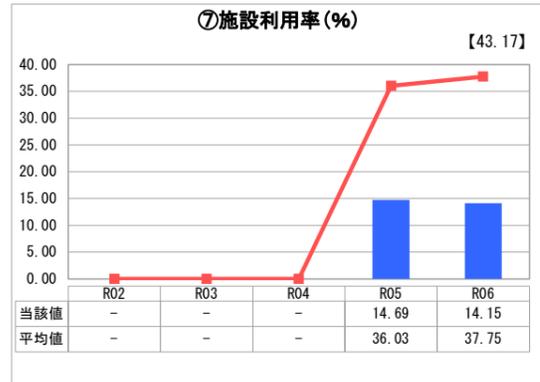
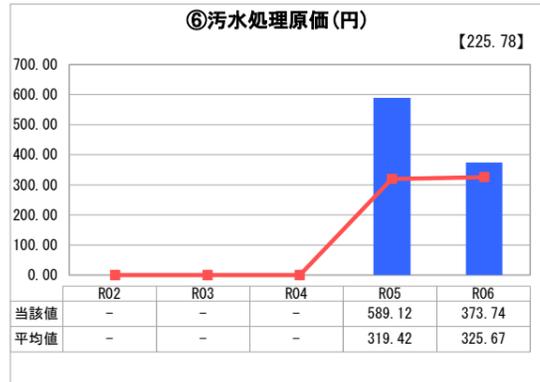
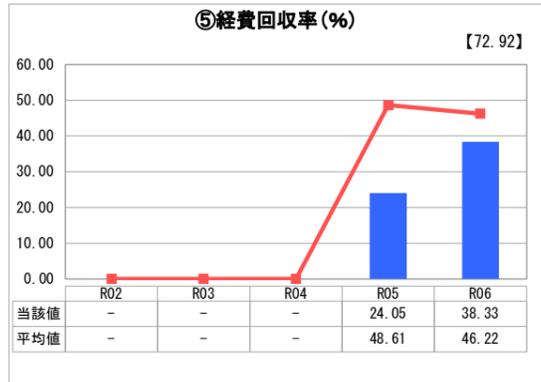
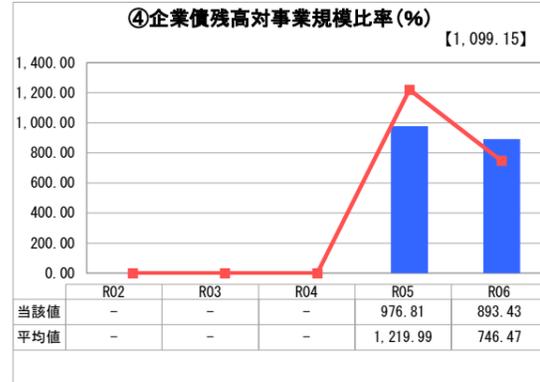
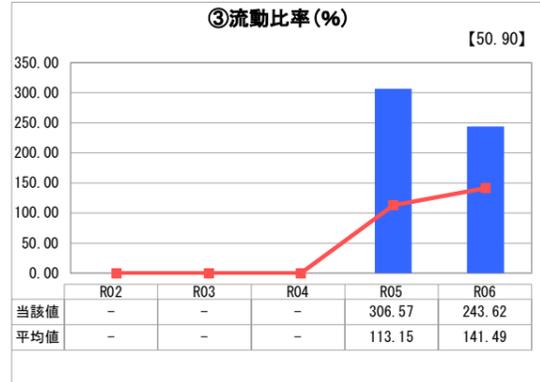
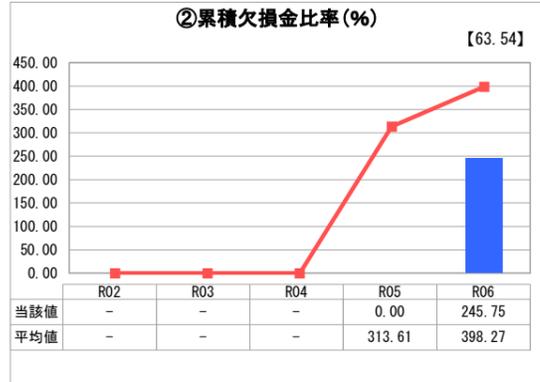
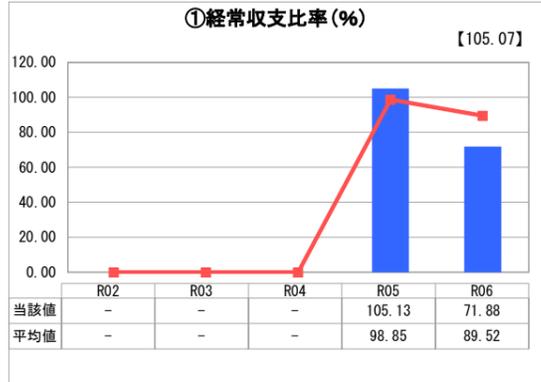
和歌山県 御坊市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	48.27	8.82	100.00	3,190

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
21,074	43.91	479.94
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,844	0.67	2,752.24

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

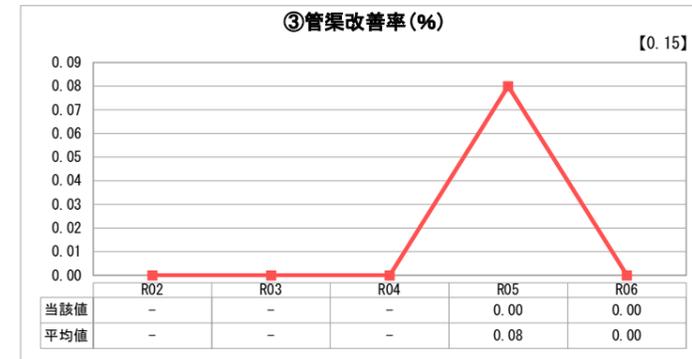
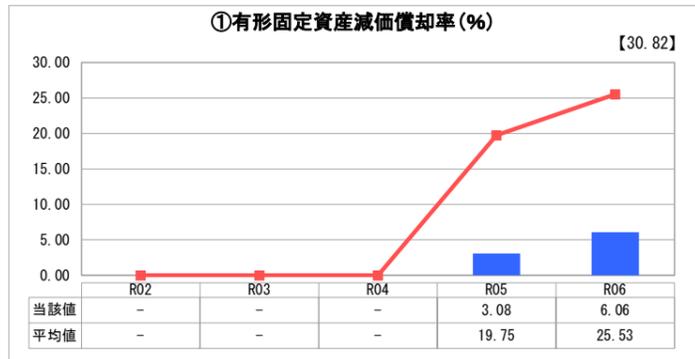
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率はR5から低下しており、経常的な余裕は縮小している一方で、依然として使用料収入だけでは経費を賄えず、一般会計繰入に依存する構造が続いている。
 ② 累積欠損金比率はR5では0であったが、R6でプラスとなり累積欠損金が発生しており、過年度損失の解消に向けた中長期的な収支改善が課題となっている。
 ③ 流動比率は低下したものの高水準を維持しており、短期的な支払能力には大きな問題はない。
 ④ 企業債残高対事業規模比率はR5・R6とも高水準で、企業債負担の重い状況が続いており、事業完了まで計画的な償還と新規起債の抑制が求められる。
 ⑤ 経費回収率は改善しているが依然低水準であり、接続戸数の増加による収入確保と経費の効率化を引き続き進める必要がある。
 ⑥ 汚水処理原価は低下傾向にあるものの、類似団体より割高であり、運転管理の見直し等によるコスト縮減の余地が残されている。
 ⑦ 施設利用率は、R5・R6とも類似団体平均を下回る水準で推移しており、施設能力を十分に活用しきれていない状況にある。
 ⑧ 水洗化率はR5・R6とも低位で推移しており、全国・類似団体を大きく下回る水準が続いていることから、接続促進が最大の課題となっている。

2. 老朽化の状況について

平成23年の供用開始からの経過年数が比較的短いことから、現時点では管渠老朽化率は低水準にとどまり、老朽化を理由とした管渠の更新・改善も行っていない(管渠改善率も低水準)。そのため、有形固定資産減価償却率も相対的に低めに推移してきたが、R5からR6にかけては上昇しており、資産の償却が着実に進んでいる状況がうかがえる。
 一方で、今後は本格的な老朽化期の到来も見据え、長寿命化計画に基づく優先順位を付けた計画的な更新投資の実施を検討していく。

2. 老朽化の状況



全体総括

R6年度は、経常収支比率の低下や累積欠損金の発生により、R5年度と比べて財政的な余裕はやや後退している一方、経費回収率の改善や汚水処理原価の低下など、収支構造には一定の前進もみられる。他方で、企業債残高対事業規模比率は高水準で推移し、水洗化率・施設利用率も類似団体を大きく下回る状況が続いている。
 このため、接続率向上による収入基盤の強化と、更新需要・償還負担を見据えた投資・資金計画を一体的に進める必要がある。併せて、人口減少や物価上昇、人材確保難といった外部環境の変化を踏まえ、更新投資の標準化と業務の標準化・委託活用等による執行体制の強化を図り、令和7年度に予定する新たな経営戦略で中長期方針を明確化して持続可能な経営を目指す。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。